

第19号

トリセツ

—鳥大説明書—

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

謎の健康スポーツ科目「野外キャンプ」にせまる!!

鳥取大学では、鳥取・大山の自然を生かした「野外キャンプ」という講義が9月に開講されます。健康スポーツ科目*の中でも珍しい集中講義で、事前学習とそれを踏まえての2泊3日のキャンプが行われます。今回のトリセツでは、この「野外キャンプ」の講義について実際に受講した学生に取材しました!

*健康スポーツ科目: 運動・スポーツの実践に必要な技能や知識の養成を目的とする科目

今回の取材対象者 Interview



地域学部地域学科
国際地域文化コース
2年
井尾 佳音さん



医学部保健学科
看護学専攻
1年
阪田 実紗希さん

Q.1 なぜ野外キャンプを選んだのですか?

井尾 2泊3日の野外キャンプの授業というのがすごく楽しそうだったからです。また登山や班活動を通じて新しい友達ができるなら、一石二鳥だと思ったからです。

阪田 体を動かすことや山登りをすることが好きだからです。私は県外の出身なので、鳥取ならではの大山に行けるということも魅力的に感じました。

Q.2 どのようなキャンプ用品が必要ですか?

井尾 テントなどの主なキャンプ用品は「大山青年の家」という施設のものを使いました。自分で用意するものは寝袋と虫除けぐらいだと思います。



Q.3 キャンプでの食事はどうされていましたか?

阪田 「大山青年の家」で食べさせてもらったり、キャンプ場の自炊場で班ごとに分かれて飯ごう炊さんをして、カレーライスを作ったりしました。

Q.4 安全面のレクチャーはどのように行われたのですか?

阪田 安全面で注意することについては大学での事前学習で学びました。雨による体温低下を防ぐためにかっぱを持ってこること、虫刺され予防のために露出の少ない服を着ることなど、先生からいろいろ教わりました。

Q.5 野外キャンプのおすすめポイントを教えてください。

井尾 正直、2泊3日の野外キャンプを履修することはかなり勇気がいることだとは思いますが、私も最初は知り合いがいらない状態で、とても不安でした。しかし、様々なグループ活動や登山を通じてたくさんの友達ができ、単位が取れる上に、新しい仲間ができる。これが野外キャンプ講義のおすすめできることだと思います。

阪田 まず講義で山登りを楽しめるという点が他の講義には無い、良いところだと思います。残念ながら私が受講した際は、天候や工事の影響で山頂まで登ることはできませんでした。それでも、学年や学部、サークルが違う人たちと一緒に過ごし、1つのコミュニティにとどまらない様々なつながりができたことは貴重な機会だったと思います。



感想

取材した学生の笑顔が印象的で、「野外キャンプ」講義の楽しさが伝わってきました。一度受講してみたいと思います。(担当 岡村)

「野外キャンプ」について詳しく話を聞くことができ、楽しい取材になりました。記事を通して「野外キャンプ」の魅力が伝わればと思います。(担当 榮)

受講者の枠が少ないためになかなか知ることができない「野外キャンプ」の実態を知ることができ、有意義な取材となりました。(担当 田中)

鳥大生

自炊奮闘録

鍋料理編

冬の食べ物の定番と言えば、「鍋料理」です。今回は鳥大生の皆さんがどんな鍋料理を食べているのかランキング形式で紹介いたします。また、ランキングに基づいて学生広報スタッフが鍋料理を作りました。

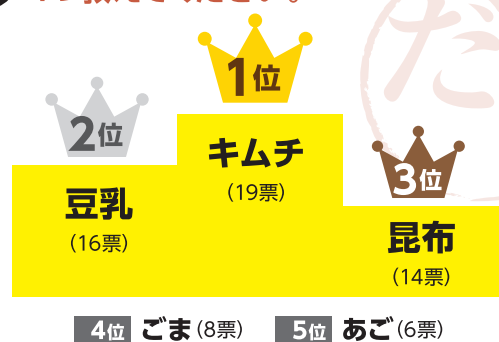
鳥大生の好きな鍋料理ランキング

普段どんな鍋料理を食べているのか、鳥大生117人にアンケートを行いました!

1 あなたが鍋に入れる具材をできるだけ多く教えてください。



2 あなたが好きな鍋料理のだしを1つ教えてください。



だしランキング5位の「あごだし」は鳥取県出身者の方を中心に票を集めました。鳥取ではトビウオのことを「あご」と呼び、あごが入った粉末だしやちくわが広く売られ、大衆魚として親しまれています。また、食材ランキングの10位までには入りませんでした。鳥取ならではの食材に「カニ」があります。ズワイガニのオスである松葉ガニは冬の鳥取を代表する食材で高価なためなかなか手を出しにくいですが、メスの親ガニ(セコガニ)は1匹数百円で購入することができ、鍋に入れると贅沢な気分を味わうことができます。

感想

今回は自炊奮闘録を担当しました。鍋は具材を入れる順番で美味しさが変わるので、皆さんも試してみてください。(担当 西村)

作ってみました!

鳥大生ランキング 鍋

具材ランキング10位までの食材とだしランキング1位のキムチだしを使います。

使う食材

- ・白菜
- ・豆腐
- ・豚肉
- ・鶏肉
- ・青ねぎ
- ・にんじん
- ・えのき
- ・しいたけ
- ・つくね
- ・春雨



使うだし

- ・キムチ



◎仕込み

- 白菜は葉と芯で分けて切ります。白菜の芯は削ぎ切りにします。削ぎ切りとは包丁の刃を斜めに入れて切ることです。
- 青ねぎは斜め薄切りがよいですが、ただ切る場合もあります。
- えのきは石づきを取ってバラバラにほぐします。
- 豆腐、にんじんは適当な大きさに切ります。
- しいたけはカサに十字切れ込みを入れ、水で洗わずにキッチンペーパーで拭き取ります。

◎調理手順

- ①だしの入った鍋に火が通るのに時間がかかる、だしが出やすい白菜、鶏肉、にんじんを最初に入れます。
- ②だしから湯気が出てきたら、豆腐、きのこと類を入れます。きのこと類は煮込み過ぎると食感が失われるので注意が必要です。
- ③沸騰してきたら豚肉、青ねぎ、鶏つくね、春雨を入れます。ここでは、アクトリを忘れずにしましょう。
- ④個人のお好みの時間煮込んで出来上がりです。



完成!

取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

●2020年2月発行 ●編集発行/鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ
ご意見・ご感想はこちらまで → ge-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp
●所属・学年は取材時のものです。

●鳥取大学公式ホームページ(学生広報スタッフ)
https://www.tottori-u.ac.jp/5333.htm
●学生広報スタッフTwitter
https://twitter.com/gakuseikouhou
●学生広報スタッフInstagram
https://www.instagram.com/gakuseikouhou/



Focus!

-the Faculty of Medicine-



米子キャンパスにある医学部。皆さんはどのようなイメージを抱いていますか？また、それぞれの学科がどのようなことを学んでいるのか気になりませんか？大学紹介のパンフレットとはまたひと味違う医学部の大学生活を、各学科や専攻の学生の皆さんにお話ししていただきました！

<勉強している内容>

はじめに細胞系でミクロレベルの医学に関する知識を蓄えて、後にその知識を基に、病理*や循環器、消化器、呼吸器などの学問を学びます。5年生から実習でその知識を活かすつ、実践をして学んでいきます。

「こういう症状にはこういう治療法が大事」というのは覚えればわかりますが、実習では病気を複数持っておられる方、教科書通りでない病気を御持っておられる方に対してどういう理由で発症しているのかを把握し、応用を利かせていかなければなりません。
*病理…病気の原因や症状などに関する理論のこと。

<目指す職域・仕事>

小児科か脳神経外科で迷っています。小児科は大人でいう総合診療科であり、子どもがどんな病気であっても全体的に診ます。そこがこの科の魅力だと思っています。

脳神経外科はもともと僕が神経系の学問が好きというのがあり、脳や神経のことについて何でそうなるんだろうとワクワクします。内科だと画像検査など自分以外の力を使わないとわからないものもありますが、脳神経外科では画像がなくても神経がどこで異常を起こしているのか自分の身体診察で分かり、とてもやりがいのある科だと考えています。

<その学科を選んだきっかけ>

高校生のときに身近に病気を患ってしまった人が増え、病気のことを調べても分からないことがあり、せっかく大学で勉強するのなら、自分が知りたいと興味を持っている医学を学びたいと思ったからです。

また僕自身がよく病気にかかっていた医師という存在が身近にあったこと、ドラマなどで医師がかっこよくて憧れたということもあります。



医学科

医学科 5年
たかみ りょういち
高見 僚一さん

<勉強している内容>

疾患や人間の身体のことももちろん学びますが、看護は人のかかわりが大切になるので人を大切にすることを主に学んでいます。患者さんにどう接したらどのような反応が返ってくるのか、例えば横になっておられる方を起こすだけでも、どうしたらより苦痛なく起こすことができるのか、常に人間同士のやり取りを考えています。

一方的に教わるわけではなく、ロールプレイングを通して自分たちの中で考えていくことが大事になってきます。

<目指す職域・仕事>

看護師といってもそれぞれの分野でエキスパートがいるのですが、私は救急に興味があるので救急の専門看護師になりたいと思っています。また、今は助産師のコースにいますので、いずれは助産師にもなりたいたいと考えています。人とかかわれる仕事はすてきだと思っていますが、一方で責任も重く、注射一本打つにも怖さがあります。でも自分がかかわることによってその方の人生が少しでもいい方向に進んでもらえたら嬉しいので人の役に立てるお仕事を目指しています。

<印象に残っている講義・実習>

2年生のときの基礎看護学実習です。2週間、初めて患者さんを1対1で受け持ちます。2年生なので専門的なことについてはまだどうしたらいいかわからないのですが、コミュニケーションをとることがメインの実習です。

実習で私が受け持った患者さんが「歩きたいけど怖くて」とおっしゃったとき、私が「一緒にちょっと歩いてみませんか？」と提案し、歩きに行きました。その翌日に「一緒に売店に行きたくて待ってたの」と私を待ってくださっていたことがとても嬉しかったです。患者さんの表情が明るくなり、だんだんと具合がよくなっていく様子を間近で見ることができ印象的でした。



保健学科

看護学専攻 3年
にしはた ゆき
西畑 友貴さん

<勉強している内容>

2年生から座学とともに実習が始まり、3年生になると実習の割合が少し増えてきます。2年生のときは尿中の糖や電解質などの成分を測定する生化学検査学実習がメインでしたが、3年生になると検体検査に加えて、患者さんと直接かかわる心電図、エコー*、脳波などの生理機能検査学実習も行います。採血実習では友達同士で採血の練習をしますが、毎回緊張しますし、なかなか慣れないです。

*エコー…超音波を用いて身体の内部を観察する検査のこと。

<目指す職域・仕事>

臨床検査技師は病院の検査室で働く人が多いですが、検査センターや保健所で働く人もいます。臨床検査は、採取した血液や尿を調べる検体検査と心電図や脳波など患者さんを直接調べる生理機能検査に分けられます。私は将来病院で働きたいと考えていて、そこで検体系、生理系のどちらかに就くつもりです。また興味がある分野の認定資格を取り、さらに専門的な知識と技術を身につけたいと思っています。

<印象に残っている講義・実習>

エコーの実習です。3年生の前期に座学でエコーの勉強をするのですが、こうやって当てたらどういう像が見えるのかということは学ばただけだとイメージするのは難しいです。しかし、実習で実際に人にエコーの機械をあててみると「ああ確かに」とわかってるので面白いです。きれいな画像を映し出したり白黒の画像を理解したりすることはとても難しいですが楽しいです。

私は鳥取キャンパスにいますが、自分が所属している学部学科でないところの授業内容、特に米子キャンパスにある医学部について学生の皆さんのお話を聞けることはなかなかないのでとても新鮮でした。また、勉強されていることの項目では専門的なこともたくさん知ることができ、とても勉強になりました。(担当 沼田)

保健学科

検査技術科学専攻 3年
たなだ かな
棚田 佳奈さん



感想

インタビューを進めていく中で、各学科・専攻の講義・実習内容がそれぞれの進路に合わせて異なっていることや、それぞれの進路の中でもさらに細かく職種が分かれていることがわかりました。私は医学科に所属していますが、普段は違う学科の人とあまりカリキュラムや進路については話したことがなかったので面白かったです。(担当 高橋)

生命科学科

生命科学科 4年
むらかみ ひろあき
村上 寛明さん



<勉強している内容>

僕は今、がんの治療に関係している研究をしています。大学入学時には知識があまりないため、病気が起こるメカニズムから、もっと基礎の生化学、分子生物学などを学びます。また実際に臨床の先生方に来ていただき、最新の医療についてのことや現在行われている治療のことなど幅広い内容をオムニバス形式で教えていただく授業もあります。

<目指す職域・仕事>

将来は研究者として製薬会社に勤め、がん治療に携わるような研究がしたいと思っています。

生命科学科に所属している学生全体でいうと様々な進路に進んでいる人がいて、製薬会社、食品や化粧品メーカー、公務員やIT(情報技術)企業、また大学院に進学して研究を続けている人もいます。

<その学科を選んだきっかけ>

僕は昔からがんの治療や研究をしたいと考えていて、特に創薬の面からのがん治療へのアプローチに興味がありました。そこでかなり臨床に近い状況下でがんの研究ができる鳥取大学医学部生命科学科を志望しました。周りに医療関連の学問を学んでいる人がたくさんいるので多くの刺激があり、将来の大きな糧となっていることを日々実感しています。